



シオンに帰る

EBENEZER
OPERATION EXODUS



あなたは立ち上がり、シオンをあわれんでくださいます。今やいつくしみの時です。定めの時が来たからです。(詩篇 102:13)

ユダヤ人のイスラエルへの帰還を支援するクリスチャンの働き

シオンに帰る

国際



フィル・ホルムベルグ
PHIL HOLMBERG
国際理事

今は重要な時です！イスラエルが国家として70周年を迎えました。エルサレムは、世界の注目を集めています。ユダヤ人が世界中から約束の地へ帰還しているのです。

現イスラエルは今年の4月（ヘブライ暦による）に70周年を迎えました。そして、この事実は非常に重要なことであり、私たちは注意を向けるべき時です。ダニエルがエレミヤ書を読んでいた時に、彼は主がエルサレムの散らされた時が70年で終わると悟りました。彼は70の意味を理解したのです。彼は正確には何を理解したのでしょうか？私が思うには、70年が終わりを告げるというのは、主が「立ち上がり、シオンをあわれんでください。今やいつくしみの時です。定めの時が来たからです。」（詩編102:13）という意味だと思います。彼は、囚われ人が解放される時が来て、主がユダヤ人とイスラエルの地とエルサレムのつながりを回復させてくださるということだと理解したのです。

彼はまた、主がエルサレムと主の聖なる山を回復させてくださる、「シオンをあわれんでくださる」時が来たことを理解したのです。

ダニエルは年月を理解しただけではなく、民の罪、すなわち反抗や不従順が、主の裁きの原因となっているものなので、それらが告白される必要があるということを知ったのです。そして、主が彼にこれらの罪を告白するように召されたのです。罪を告白するということは、罪

が罪であるということについて神様と同意することです。

ですから、ダニエルは主の前にへりくだり断食して祈りました。そして神のみことばが真実であることを告白したのです。「モーセの律法に示されたように、この災いはすべてわれわれに臨みましたが、」（ダニエル9:13）ダニエルは民の罪を告白しました。そして、彼が告白した時、主は御自身を啓示されました。「正義はあなたのものですが、…あわれみと赦しとは、私たちの神、主のものです。」（ダニエル9:7, 9, 16）

エルサレムと聖なる山がダニエルの祈りと告白においてどれだけ重要なものかを見てみましょう。「主よ。…どうか御怒りと憤りを、あなたの町エルサレム、あなたの聖なる山からおさめてください。」（ダニエル9:16）「…御顔の光を、あなたの荒れ果てた聖所に輝かせてください。」（17節）「…目を開いて私たちの荒れずさんださまと、あなたの御名がつけられている町をご覧ください。」（18節）「主よ。聞いてください。主よ。お赦しください。主よ。心に留めて行なってください。私の神よ。あなたご自身のために遅らせないでください。あなたの町と民には、あなたの名がつけられているからです。」（19節）

ゼカリヤ書では、御使いまでが主に叫びます。「…いつまで、あなたはエルサレムとユダの町々に、あわれみを施されないのですか。」（1:12）



写真：
エチオピアユダヤ人が、
ベングリオン空港に到着するところ



)主は、「良いことば、慰めのことばで答えられた。」(13節)

それから御使いは、主のことばを預言者に伝えました。「わたしは、エルサレムとシオンを、ねたむほど激しく愛した。」(ゼカリヤ1:14) そのメッセージは続きます。「わたしは、あわれみをもってエルサレムに帰る。・・主は、再びシオンを慰め、エルサレムを再び選ぶ。」(16, 17節)

私たちは、主が、ユダヤ人が世界からイスラエルに帰還することについてのみことばを成就されていることを知っています。確かにこれは、2014年と2015年に連続して4回の月食がペサハとスコットの初日に起こったことにも見られます。これらは一つもイスラエルでは見られませんでした。

2回目と3回目の月食は広く太平洋から北極まで、ベーリング海峡から太平洋を通って南極へ、そして戻ってきました。あまり多くのユダヤ人はその地域に住んでいませんが、それは、北極から南極へ日付変更線が通る場所です。

1回目と4回目のブラッドムーンは、アメリカと西ヨーロッパ全土で観測されました。そこは、散らされたユダヤ人のほとんどが住んでいる広大な地域です。

この全4回連続の月食は、天における力強い角笛の音ではないかと理解しています。

第一に、主はご自身の民が散らされた地から戻るように召しています。2016年10月に、エベネゼルとイスラエルのためのとりなし手たちが、ドイツにおいて合同の祈りの旅をしました。その時に、主は私たちにイザヤ書42章2節に基づいて祈りの叫びをくださいました。それは、「ユダヤ人を回復させ、彼らを散らされたところから解放してください。」という祈りでした。

2番目に、主は異邦人の教会と国々に重大な警告を与えておられます。それは、「しかし、安逸をむさぼっている諸国の民に対しては大いに怒る。わたしが少ししか怒らないでいると、彼らはほしいままに悪事を行った。」(ゼカリヤ1:15)

3番目に、主は時間が短いと言われています。ブラッドムーン、イスラエルの統一した首都としての50周年記念、そしてイスラエルが国家として迎えた70周年、これらのことが、世界中からの最後のアリヤーが行われるという時が近いことを示しています。エルサレムとイスラエルにいるすべてのユダヤ人が贖われて、神、イスラエルの神との和解をする時が近づいています。「祝福あれ。主の御名によって来られる方に。」

用語解説

アリヤー(Aliyah):

ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関(Jewish Agency):

1929年C.ワイズマンによって創設され、エルサレムに本部をもつユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):

イスラエルに帰還するユダヤ人



神様が道を作られる！

モルドバ



リナ&パベル
LINA & PAVEL
モルドバ支部リーダー

イゴルの家族は難しい状況に追い込まれましたが、神様は彼らがイスラエルで新しい生活を始めることができるように、道を作ってくださいました。

アリヤーするために1年半かかりましたが、その間に、イゴルは仕事を転々としていました。そのため、暖房費がかさんだ時には経済的に非常に困難な状況に陥りました。そこで、私たちは彼らに経済的な支援をしました。それは特に重要な支援となりました。というのも、彼らには5人の子供がいたからです。その中には病気になるまで薬を必要としている子もいました。モルドバ政府や健康保険では薬の供給がないため、イゴルのような多くの家族は非常に苦しんでいたのです。

私たちが初めてこの家族の元を訪れた時には、彼らは古いホステルのせまい一部屋で、非常に貧しい生活をしていました。彼らの部屋は最上階で雨漏りのする屋根のすぐ下にあっただけで湿っていました。イゴルの妻のタティアナは5人目の子供を産んでから、結核を患い、イゴルがすべての貯金を使い、また借金もして彼女の治療のお金を工面していました。生まれたばかりの赤ちゃんは、家で世話をする人がいないので、

病院にいなければならない状況でした。

イゴルの収入は家族の必要を満たすには十分ではありませんでした。特に冬の間は暖房費がかかるので大変でした。また、彼はあまりタティアナのお見舞いには行くことができませんでした。なぜなら、行く度赤ちゃんのおむつを持って来るように病院のスタッフに言われたからです。彼にはおむつを買うお金もなかったからです。タティアナはその後回復し家に戻ることができましたが、そのころまでには家族のお金は底をついていました。私たちはそれを知ってすぐに、この家族に食料品を届けることができました。

私たちはまた彼らにアリヤーすることの可能性についても分かち合うことができました。イゴルは関心を持っているようでしたが、タティアナも同意するまでには少しの時間がかかりました。彼らのために多くの祈りが積み重ねられました。彼らの書類が整うまでに1年かかりました。私たちは、彼らが領事に面接できるように支援しました。その後まもなく、彼らはアリヤーする許可をもらうことができたのです。彼らは遂に帰還へと向かっています！



新しい生活が心待ちな
イゴル、タティアナと子供達

彼らは出て行かなければならなかった

アンナとディミトリは、ユダヤ機関の行事の手伝いをする中でイスラエルを愛するようになりました。彼らはイスラエルへ行かなければと思うようになりました!それで、私たちは喜んで彼らのアリヤーの支援をさせていただきました。

「ネプロペトロフスクにあるユダヤ機関に関わりイスラエルに関する働きに参加する中で、イスラエルへの愛が私たちの心の中に生まれたのです。」とアンナは、語っていました。昨年、彼らは二人の息子をユダヤ機関主催のサマーキャンプに送りました。そして、彼らは、喜ばしい報告を携えて帰って来ました。

「僕たちはアリヤーしなければならない!」と言ったのです。アンナはこう言いました。「私たちの子供達の将来はイスラエルにあるということを、完全に確信したのです。」私たちにコンタクトを取ってから、彼女とディミトリは必要な書類を集め始めました。アンナは次のように語っていました。

「アリヤーすることは簡単にはできないのですね。いろいろな困難を克服していかなければならないのです。途中で問題や失望も体験しましたが、エベネゼルチームは私たちの元をいつも訪れて励まし続けてくれました。だから、今私たちは出発することができるのです!」



ウクライナ



タティアナ
TATIANA
ウクライナ地区代表

夢が遂にかなう!

「私はこどもの頃から、いつかイスラエルへ帰還したいと夢を見ていました。」と、エウゲニアは私たちに言いました。

「ユダヤ人の中には、母親がユダヤ人の人だけがアリヤーできる、と言っている人がいました。でも、私の場合は父親がユダヤ人だったのです。でも、私は望みを捨てることができませんでした。」

彼らの最初の申請書が却下された後、彼女は夫のブラディミルとともにエベネゼルのアリヤーのための支援を求めました。そしてその後まもなく、彼らの申請書が受理されたのです!

エウゲニアは次のように語りました。「私たちは本当に感謝しています。ウクライナでは、私たちの多くが生活の必需品がないまま生活しています。このため、エベネゼルから受ける支援に私たちは本当に感動します。彼らはパスポート取得の支援からイスラエル領事に面会するための送り

迎えや、また空港への送迎もしてくださったのです。しかも、それらの支援に対して私たちは何一つ支払いをする必要がなかったのです。これは奇跡のようです。エベネゼルの運転手さんも私たちの荷物を運んでくださいました!」

「私には二人の姉妹がおり、彼女たちの家族を入れると8人です。彼らがアリヤーすることを決心したなら、彼らは必ずエベネゼルの支援を求めることでしょう。」





アルティオムがイスラエルに着く！

ウズベキスタン



ザンナ
ZHANNA
ウズベキスタンリーダー

アルティオムは遂にイスラエルに向かうことになりました！私たちが初めて彼の元を訪れたのは2年前のことでした。彼は当時父親と祖父、そして彼の弟と妹と一緒に生活していました。彼らはほとんど何も持っていませんでした。それで、アパートの小さなテーブルで順番に食事を取っていました。私たちはすぐにアルティオムに必要な衣服、ジーンズ、セーターやジャケットを提供しました。

アルティオムと彼の弟と妹の母親はユダヤ人でしたが、彼らがまだ幼い頃に家を出てしまっていました。私たちがアルティオムと会った時、彼はこう言いました。「私はイスラエルに帰還したいと思っています。でも、もはや母親と連絡を取ることができません。」

その後、しばらく時間はかかりましたが、エベネゼルの支援により彼らはイスラエル領事に書類を提出することができました。アルティオムがまず初めにイスラエルを出て、その後まもなく妹が学習プログラムのためにイスラエルへ発ちました。私たちの行いは、語ることはよりも

力強いということを知りました。確かに、ユダヤ人のクリスチャンに対する態度が変わってきているのを見えています。そして、私たちはお互いに近い存在となってきました。

どうか旧ソ連でのアリヤーの働きのために、またアルティオムとその家族のようなユダヤ人の基本的な必要を満たす支援のために、お祈りを続けてくださるようお願いします。



グルジア



スラバ
SLAVA
エストニアリーダー

長い間待ち続けた

ショレーナは、美しい山々のあるグルジア地域出身です。この地域は現在は平和ですが、最近までは、この地域に住むことも旅行することも、収入や立場にかかわらず無差別に人々から盗む暴力的な盗賊がいるため、非常に危険な地域でした。また、この地域を通ることは、高い山地のため時には岩や雪で閉ざされるという危険もありました。

彼女が家族と住んでいた小さな町で、私たちはアリヤーすることについて分かち合いました。彼女は、長い間イスラエルに行きたいという夢を持っていたということを知りました。それで、彼女の夫はユダヤ人ではなかったのですが、感謝なことにグルジアを出てイスラエルに移り住むことに反対をしなかったのです。

ショレーナは、自分の親戚が3家族いると話してくれました。それで、私たちは彼らの元に訪れてアリヤーについて話しました。そして

彼らもみなアリヤーすることになりました！不思議なことに、ショレーナは書類不備の問題があったため、最後にイスラエルに発つことになりました。長い間待ったのですが、遂にショレーナは夫と二人の子供とともにイスラエルに発つことができたのです！



彼の尊い本!

ミカイルは約束の地に移ることを願っていましたが、彼は自分が無神論者であると打ち明けていました。ですから、彼の荷物の中に聖書が入っているのを見つけた時には、本当に驚きました。

私たちが彼に初めて会ったのは、彼の住む地域でユダヤ人の文化行事に何年か前に行った時のことでした。彼はその時とても弱く病気のように見えました。実際、彼は何度も手術を受けていましたが、容体は一向に改善されていませんでした。

彼のイスラエルへの移住の願いには、海辺に住みたいという願いも含まれていました。彼の状況を特別なものとしたのは、彼が自分が共産主義者であり無神論者であると宣言していたことでした。私たちが彼を訪れた時には、2回に渡ってイスラエルでの生活がどのようなものとなるかについてだけではなく、霊的な事、すなわち全能の神の存在や祈りの力についても分かち合いました。感謝なことに、ミカイルは私たちの祈りや特に彼の健康の祝福のための祈りを喜んで受け入れました。

ある日、ミカエルはアリヤーの申請をする決心をしました。しかし用意しなければならない書類が14もあると知ってひるんでしまいました。この状況には本当に祈りが必要であると知ったので、私たちは支援者に彼のためにとりなしの祈りを要請しました。主は祈りを聞いてくださり、その後間もなく突然のようにイスラエル領事がミカイルに許可を与えたので、彼はビザを取得することができました!

私たちはミカイルの荷造りの手伝いを申し出ました。そして、彼には一番大切な本だけを選んで持って行った方がよいと伝えました。なぜなら荷物の重量制限があるからです。彼の選んだ大切な本の中に、聖書があったのです。そして、私たちがそれに気が付いたのを見ると、こう言いました。「すべての人は、自分の使命を果たさなければならない。」それはまるで彼が全能なる神がユダヤ人を彼らの特別な地に呼んでいるということを理解したかのようでした。私たちは、主が彼を祝福して下さりイスラエルに彼をしっかりと植えてくださるようにお祈りします!

ロシア



ラリッサ
LARISSA
アルタイ地区代表



メッセージを広める

ブルキナファソ



アブラハム・ミロゴ
ABRAHAM MILLOGO
ブルキナファソ国代表

エベネゼルのブルキナファソのチームは、国中の教会でアリヤーの働きについて分かち合う機会が与えられたことを、主に感謝しています。多くの教会は今イスラエルのため、またユダヤ人の帰還のために祈っています。断食の日がこのために設けられています。

しかしながら、置換神学が今だに多くの信者の目を真理からくらましています。私たちは、ラジオのポッドキャストを通して、神様の目的の中でユダヤ人がどの位置を占めているかについての教えをしています。6つのラジオ局がこのメッセージをフランス語で毎週流しています。もう一つの番組、「イスラエルの散らされた民を再び集める」は、テレビでも紹介されました。そして、主はティラヌスという聖書学校でこのことについて分かち合う扉も開いてくださいました。

将来的には、西アフリカの他のフランス語圏でもこのメッセージを伝えていき、聖書学校において、牧師たちに、神のみこころの中のイスラエルについて教え、聖書的なユースの集まりや大学などでユースにも分かち合っていきたいと願っています。



フランス



ベルナデット・トリバウドゥ
BERNADETTE TRIBAUDAUT
ファミリーコンタクトマネージャー

恐怖を逃れて

反ユダヤ主義のため、フランスにおけるユダヤ人の状況は悪化しています。多くのユダヤ人の家族はフランスを出ることを考えていますが、驚くことに何とかフランスに残ろうともしています。しかしニース在住の3人の子供を持つ家族にとっては、選択の余地のないことでした。

彼らは2016年7月のテロリストの攻撃を目撃しました。実際に犯人が車を運転して、死と破壊を起こす現場を見たのです。父親はその場で今がイスラエルへ発つ時だと決心しました。彼はトラウマのために仕事も辞め、恐れのために外出もできなくなりました。一年間の間、精神科医のもとに通って治療を受けました。家族の残りの者たちも専門家の治療を受けましたが、子供たちは学校に通い続けました。そして妻は教師として働き続け、アリヤーするためのすべての必要な手続きなどをしました。

私たちは彼らが昨年8月に引っ越す前に会いました。彼らはまだかなりおびえてはいましたが、イスラエルへ行って住むということが決まって彼らの心に平安が訪れました。母

親は喜びで輝いていました。父親は落ち着いた感じでした。私たちは一緒に祈りました。彼らは、私たちが彼らのためにしたすべての支援に対してとても感謝していました。

どうか、フランスから、多くのユダヤ人のイスラエル帰還の支援をすることができるよう、私たちのチームのためにお祈りをお願いします。



ニースの攻撃現場の記念碑



故郷の町から故郷の地へ

ニューヨークのバッファローあたりで「ラ・ノバ・ピッツァ」と聞いたらおいしそう!と思うでしょう。そのことをマーニーが私たちのためにしてくれました。彼女がイスラエルに出发する前に、エベネゼル支部へ招待した時に、彼女は次のように言いました。「よかった!それじゃあ、ラ・ノバのピッツァとチキンを持ってくわ!」彼女がコシエル食物規定を守っているのを知っていたので、昼食に何を食べたいかを聞きました。すると彼女は笑いながら言いました。「私は自分の食べ物を持ってくるから、私のことは心配しないでくださいね。」

化学者でもあるこの陽気な若い女性は、アリヤー支援のために何か月前に私たちに連絡をしてきました。彼女は、私たちのエベネゼルU S A支部から遠くないソバッファローで生まれました。しかし8歳の時にノース・キャロライナへ引っ越しました。彼女の祖母は今もバッファローに住んでいます。それで、マーニーはニューヨークからイスラエルへ飛び立

つ前に、自分が彼女のために作ったキルトをプレゼントするために、バッファローへ戻って来たのです。マーニーは私たちのオフィスにきました。なんとというすばらしい時だったことでしょう!彼女はイスラエルへの帰還を本当に喜んでいました。そして、一緒に昼食を食べながら楽しい時をともに過ごしました。神様の栄光をほめたたえます!



U S A



キャシー・アルディノ
CATHY ARDINO
U S Aアリヤー
ディレクター

マーニー MARNIE
(前列中央)
出エジプト作戦U S
Aスタッフとともに

信仰の一步

忠実な支援者のおかげで最近アリヤーしたばかりのマイクは、なぜ成功したスポーツキャスターの仕事辞めてまで人生の方向転換をしたのかをしばしば質問されます。

彼は、イスラエルを訪れた最初の週に美しく聡明な暖かい心のイスラエルの若い女性と出会いその7か月後に結婚したそうです。二人はその後娘の誕生で三人家族となりました。

彼はなぜアリヤーしたのでしょうか?彼は、主なる神が「私をイスラエルへの帰還をするように召したのです。」と言っています。彼はそのことをどのようにして体験したかを語ってくれました。「人々は、多くの祝福が与えられると言われても、簡単には自分の生活を変えることはできないものです。でも、私は信仰の一步を踏み出すことにしました。イスラエルへ帰還できるはずだと自分自身に信仰を置いていると思っていたのですが、実際には、もっとはるかに高いところに私は信仰を

置いていることに気づきました。私は特に、エベネゼルU S Aの働きに感謝しています。彼らは、本当に主の働きをしていると思います。

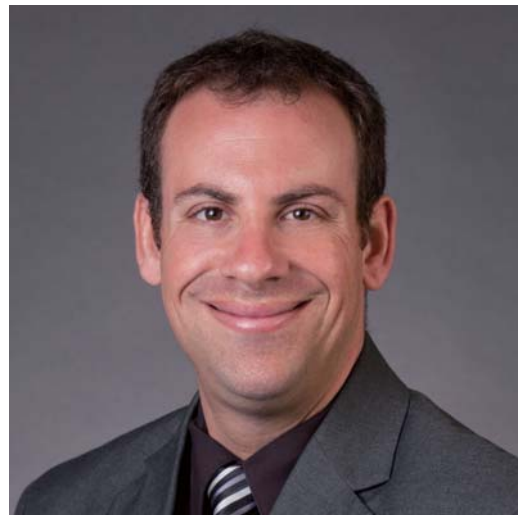


写真
マイク:イスラエルへ召しを受けて帰還する

ロザリアを助ける

スペイン



マノロ・サボリド
MANOLO SABORIDO
スペインコーディネーター

エベネゼルは、お互いに助け合う家族であるゆえ、主に感謝しています。昨年のエベネゼルヨーロッパ大会で、オランダのコーディネーターをしているリチャード・ゼベンフィゼンから聞いたことですが、スペインに住んでいるユダヤ系オランダ人がアリヤーをしたいということでした。

そこで私たちはロザリアに連絡を取りました。彼女の母親はホロコーストの生存者でした。ロザリアは結婚して9人の子供がいました。しかし、今一緒に生活しているのは、9人の子供のうち2人だけでした。ヨーロッパで台頭する反ユダヤ主義のため、彼らはイスラエルに帰還することを決心しました。

私たちは彼らのアリヤーの手続きの支援をしました。また、彼らの家財を輸送するために、エベネゼルオランダ支部とも連絡を取り、家財の輸送方法を調べました。マドリッドの空港で彼らに別れを告げた時、彼らはとても喜び感謝していました。そして、私たちは彼らの

支援をすることができた祝福を感謝しました。



イスラエルへの 投資

彼らの将来を築く

毎年、何千、何万ものユダヤ人がイスラエルへ帰還して、イスラエルを住まいとしています。神様はエベネゼルの召して世界中から彼らの帰還を支援してきました。1991年以来、16万人以上のユダヤ人が帰還するのを支援してきました。

新しい国へ移住する時に、もっとも大きなチャレンジの一つが適切な住まいを見つけることです。新しい移住者から今まで以上に適切な住まいを見つけるまでの間の短期滞在の場所を提供してほしいという要請を受けています。50か国以上を代表する働きとして、多くのボランティアやスタッフがイスラエルに来た時に滞在する宿泊場所も必要です。

あなたは、神様からの導きを受けてイスラエルに土地を購入するように召しを感じていますか？または、もうすでにあなたはイスラエルに土地を所有しているならば、それをユダヤ人の滞在、またはエベネゼルの働きのために提供していただけませんか？

イスラエルや各国では、さらに多くの素晴らしいプロジェクトがたくさんあります。私たちは、イスラエルの回復のためにクリスチャンが関わることの重要性を理解しているスポンサーを探しています！

あなたの地区のエベネゼル支部、または地域コーディネーターにコンタクトをしてください。

神の流れに入る

「…水の宮の敷居の下から、東の方へ流れていた。宮は東に面し、その水は、下から出て、祭壇の南にある宮の敷居の南の端から、流れ下っていた。」エゼキエル47:1

エゼキエルがこの幻を与えられた時には、御使いは彼を川へ導き、その水は彼が中に入るにつれてだんだん深くなっていきました。そしてそれはいやしと回復をもたらしました。川岸の木々は食物と薬を生み出しました。

主はエベネゼルの働きを、ユダヤ人に対して、癒しと回復をもたらす薬を与える川として用いておられます。神様は、すべての国々からイスラエルへとご自身の民を集めておられます。祈りと愛の行いを通して彼らの心に届くことができますと、神様は教えてくださいました。

イエス様は、漁師をしていた者たちを弟子として呼び、彼らを人間をとる漁師にされました。それと同じように、主はエベネゼルをユダヤ人が約束の地に帰るための道具として召しておられます。神様は、世界の教会の信者たちにアリヤーの働きに加わるように呼びかけておられるのです。

ロシアにおいてますます多くの信者たちがイスラエルとアリヤーについての啓示を受け取る中で、素晴らしいことが起こっています。イスラエルのためのとりなしの祈り、またユダヤ人への実際的な支援活動、そして教会への教えや教会合同のイ

スラエルのための祈りの集会などは、現在主がなしておられることの一部です。

どうかお祈りを続けてください。

- ✓ 神の流れがユダヤ人の心に届き、私たちの愛と憐れみを通して彼らに癒しと回復をもたらしますように。
- ✓ 困窮したユダヤ人の家族やホロコースト生存者たちに慰めと希望を与えるために、食糧や薬品を十分届けることができますように。
- ✓ ユダヤ人たちが、私たちが彼らの元に神のみことばを伝える時に、主の彼らに対するアリヤーの召しに従うことができますように。
- ✓ 私たちがユダヤ人とアリヤー、イスラエル国とエルサレムの町を祝福する中で、教会に愛と一致がもたらされますように。

祈り



スティーブ・ライトル
STEVE LIGHTLE
国際スピーカー

IN THE
Footsteps
OF THE
Prophets

4-11
NOVEMBER
2018

2 DAYS IN BAY CLUB HOTEL HAIFA
2 DAYS IN THE NEGEV
3 NIGHTS IN RAMAT RACHEL, JERUSALEM

FOR
ONLY

\$1465.00 USD

*PRICE DOES NOT INCLUDE FLIGHTS

TOUR GUIDE: HANNA BEN HAIM

+INFO: SILKE.BARTHEL@EBENEZER-INTERNATIONAL.DE

祝福された事務所!

イスラエル



リッサ・スミス
LISSA SMITH
イスラエル支部

エベネゼルのエルサレム支部は、ユダヤ人の慰め(イザヤ40:1)の為のものです。この働きの実は、悩んで入ってくる新しい移住者が、希望の笑みを浮かべて出ていく時に見られます。彼らは手作りの毛布や食料品の購入カード、生活のための情報の冊子などを携え、感謝して帰って行くのです。

クリター(吸収や統合)が成功しなければ、アリヤーの成功とは言えません。一人一人の新しい移住者が、イスラエルの地に植えられる必要があるのです。それは、神様が心と思いを尽くしてなされると語っておられることなのです。(エレミヤ32:41)

エルサレム支部では、慰め、励まし、アドバイス、そして実際的な支援などの活動をしています。電話をかけてきた人や訪ねて来る人は、心からのあわれみによって歓迎を受けます。中には、個人的な必要のある方もいます。彼らは、支援とともに理解を求めて来ます。あるロシアからの新しい移住者は、癌を患っていましたが、人々が彼女のために祈っていることを聞くと、とても嬉しそうでした。

アドバイスをすることも、私たちの働き的重要组成部分です。アイリス・ゴールドマン(この記事のために情報提供をしてくれました)は、データベースを用いて人々を導き、具体的な必要のため(仕事や家やサポートグループなど)の支援を与える団体にその人たちをつなげていきます。クリスチャンやユダヤ人の団体、政府のアリヤーや統合の部門は様々な形で支援をしています。

エベネゼルでは、必要のある移住者への食料品購入カードやその他の実際的な支援を随時提供しています。支援を受けて彼らはとても感謝しています。ある若い女性は、家族のために受け取った2枚の食料品カードを持って、嬉しそうにこう語っていました。「あなたがたがしている働きは、本当に大切なものです!」

あるロシアからの移住者の女性は、娘と自分のために、2枚の食料品購入カードと2枚の手作りのブランケットを受け取って、こう言いました。「皆さんの支援なしには、私たちはやっていけなかったと思います!」このことばは、イスラエル帰還のプロセスを助けているアイリスや、このロシアの親子を家に迎えている夫婦のための励ましだけではなく、エベネゼルの働きを支援してくださっている皆さんのための励ましのことばだと思えます。

そして何よりも、ご自身の民をその故郷に植え、彼らを栄えさせてくださる神様にすべての栄光をお返しします!神様は忠実なお方です!



Cover photo: Jewish French children arriving at Ben Gurion. "Nir Kafri for The Jewish Agency for Israel" used with kind permission

Operation Exodus

A ministry of Ebenezer Emergency Fund International

Ebenezer Operation Exodus International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org

Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster
NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org



**EBENEZER
OPERATION EXODUS**



エベネゼル緊急基金日本支部

〒062-8691 豊平郵便局私書箱37号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
office@ebenezerjapan.org
http://ebenezerjapan.org/
郵便振替(名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦)はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。